

塾生の成功の実現をめざして

開倫塾
塾長 林 明夫

1. 開倫塾の使命 (mission, ミッション)

- (1) 自己学習能力の育成(自分で学習する能力を育成すること)
- (2) 塾生の成功の実現に貢献すること
 - (ア) 学校成績向上
 - (イ) 希望校合格
 - (ウ) 高等教育機関での授業や研究に耐えられる基礎学力を身に付けること
 - (エ) 知識社会 (Knowledge Society, ナレッジ・ソシアティ) に対応できる基礎学力を身に付けること
 - (オ) 希望する職業に就いたり、希望する生き方ができることに少しでも役立つこと
 - (カ) 教育する人間 (Educated Person, 勉強し続ける人) を育てること
 - * 「勉強し続けること」は「人生における選択肢を増やすこと」→幸福な人生に繋がる

高等教育 (higher education, post secondary education) の大衆化に開倫塾は対応したい。
100%に限りなく近い中学校卒業生が高等学校に進学し、高等学校卒業生の約74%が専門学校、短期大学、4年制大学などの所謂(いわゆる)「高等教育機関」に進学するか進学を希望しているのが日本の状況。開倫塾でもできる限りの教育を塾生にしよう。

2. 開倫塾の学習理論－「教授法の統一」の前提となる考え方－

- (1) 「理解」→「定着」→「応用」(学習の3段階理論)
 - (ア) 「理解」－(うんなるほどと腑に落ちること、よくわかること)
 - (イ) 「定着」－(一度「理解」した内容が正確に身に付けていること)
 - (i) 何も見ずに正確に口をついて言えること
 - (ii) 何も見ずに正確に楷書で書けること
 - (iii) 基本的な問題を見た瞬間に条件反射で正確にできること
 - (ウ) 「応用」－(「理解」し「定着」したことを使いこなせること)
 - (i) テストで合格点を取れること
 - (ii) 社会で実際に役に立てること

(2) 学習の3段階に応じた学習方法

(ア) 「学習効果」 = 「学習時間」 × 「学習方法」

かけ算であるのでいくら片方がよくても片方がゼロなら答えはゼロ効果は上がらない

(イ) 「理解」 (a) 教室で先生の授業をよい態度で聴く

- i) おしゃべり
 - ii) 忘れ物
 - iii) 遅刻・欠席
 - iv) 居眠り
- } 禁止事項

(b) 自分でテキストや参考書、辞書を使い勉強

(ウ) 「定着」 (a) 「定着」のための作業時間をとることがカギ

(b) 定着のための作業は授業中には十分できないので授業以外にできるだめ多くの時間をとる工夫を

- i) ファミコン
 - ii) TV
 - iii) 長電話
 - iv) 長風呂
 - v) ケンカ
- } 少なくした方がよい

(エ) 「応用」 (a) 過去問を5～10年分演習

(b) 小問ごとになぜ間違ったのか、その原因が「理解」→「定着」→「応用」のどこか推定し、不足分をピンポイントで補う。

3. 基本動作を身に付けさせること

(1) 不足する技能は先生が教えない限り一生身に付かない。

そうであれば、我々が教える以外無い。

そう考えよう。

(2) 「武者語り」で成功事例を教え続けよう

(3) 新聞を読んで考えるスキルを身に付けさせよう

(4) 躰(しつけ)教育も積極的に行おう

(ア) 美しい立居振る舞い

(イ) 敬語表現を含む言葉遣い

4. 教育とは何か

(1) よいところを伸ばすこと

(2) 足りないところを補うこと

(3) 塾生に立派な人間になってもらい、有意義な人生を送ってもらいたい。

(4) そのための支援に徹しよう。

以上
感謝